

9

あなたの街で起きた実際の事故を
ヒヤリ地図にいらてみましょう

★今日の集まり・早わかり★

目的

自分たちでつくった地域のヒヤリ地図の上に、過去3年間の実際の事故データを集めて黒いシールで貼ります。事故が起きているのに、ヒヤリとしていない場所は、もっとも危険な場所であることがわかります。逆に事故はなくても多くのヒヤリがある地点については、改善案も提案できます。

効果

- 運転力** ④ 危険予測力が上がる。
- 気づき力** ① ヒヤリ地図づくりを体験しただけに、実際の事故の場所が強烈な印象を与え、危険箇所を認知させる。
- コミュニケーション力** ④ 仲間との交流でいきいきした気分になれる。改善案を考え、提案する中で、地域行政への参加の機会も増える。
- 脳機能** ④ 事故現場を材料にした話し合いで、脳が活性化する。

時間割
の目安

▼ 約1時間40分（準備、あとかたづけを除く）

○準備	10分
①リーダーあいさつ	10分
②交通脳トレ	10分
③ヒヤリ地図に事故のデータを加える	1時間15分 (途中休憩あり)
④リーダーまとめ	5分
○あとかたづけ	10分



..... あらかじめ用意しておくこと

《リーダー・班長》

- 「今日、話し合うことの台本」などをよく読んで、ヒヤリ地図づくりの流れを理解しておきましょう。

《教材など》

- リーダー・班長用：班長用にP104～117をすべてコピー（班長の人数分）
机（作業用） レポート用紙など（まとめるために）
- 受講者用：「ヒヤリ体験を生かすーレベル2」でつくったヒヤリ地図
「ワークシート」（P105）のコピー（人数分）※白黒コピー可
「今日、覚えてほしいこと」（P106～107）のコピー（人数分）※白黒コピー可
別冊子「交通脳トレ3ヵ月」（2枚1組）のコピー（人数分）※コピー方法は問題集参照
のり、ハサミ、蛍光ペン（3色）、貼り付け用シール（タックシール：直径5ミリ。赤、青、それぞれ新しく加わった1人あたり30個くらいの計算で。黒は3年間の事故件数分。P112参照）
ビニールシート（貼り合わせた白地図と同じ大きさ） セロテープ
お茶（ペットボトル）（人数分） 筆記用具（持参していただくか人数分用意）

ヒヤリとしないのに、 事故が多発している場所がもっとも危険な場所

「ヒヤリ地図」は人々がヒヤリとしている場所を見つけるのには役立ちますが、実際の事故が起こっている場所とそれが必ずしも一致しているとは限りません。

1. 多くの人々がヒヤリとしているが、事故が起きていない場所
こういう場所には事故が起きる危険が潜んでいます。
2. ヒヤリとしている人が少ないが、事故が起きている場所
みんなが安心して、あまり注意しないで通っている場所で事故が起きているわけですから、もっとも危険な場所ということになります。事故を引き起こす要因が隠れているはずなのにそれに気づかず、何の疑いも危険も感じずに通行しているということです。

潜んでいる要因が何かを発見し、対策を打つことが第一ですが、少なくともそこが危険な場所であることを知らせることは最低限必要です。警察や役所に任せるのではなく、近くの知人や家族に知らせることだけでも安全に貢献するはずですよ。



一番重要なのは地域の人たちが 「自分たちの街の安全を考えていくこと」

平成28年にスタートした国の交通安全5ヵ年計画「第10次交通安全基本計画」では、交通事故のない社会をめざして、人命尊重の理念、先端技術や情報の積極的な活動が重要とされています。

政府では、第10次5ヵ年計画が終わる令和2年までに、1年間の交通事故死者数を2,500人以下に、交通事故死傷者数を50万人以下にするという目標を定め、日本が世界一安全な国になることをめざしています。

また現在、この方針を受け継ぎ、さらに交通事故を減らそうと、令和3年にスタートする交通安全5ヵ年計画「第11次交通安全基本計画」も作成準備段階に入っていますが、それを実現するためにもっとも大切なのが、国民自らの意識改革です。この、いきいき運転講座9「ヒヤリ体験を生かす」で、レベル3にまで達したみなさんには、地域の交通安全を考える人としての資質がかなりついてきていると思われます。ここでの学習を生かし、地域のリーダーになっていただくことを期待しています。



発言し提案するお年寄りになることで交通事故を減らすことができます

自分たちの街を安全な街にするために、お年寄りの目線で街をチェックし、気づいたことを提案しましょう。

たとえば、ほとんどの警察署には、「標識ボックス」と呼ばれる提案箱が設けられていますので、標識の改善や追加などについて提案してはいかがでしょうか。

「世界老人調査」によると、日本のお年寄りは働いている人の数も多く、できるだけ国や親族の世話にはならず、自分の生活は自分の力で支えていこうと考える、自立した方が多いという結果が出ています。

ところが交通の問題になると、日本のお年寄りは受け身の存在で、安全は国や自治体、あるいは若い人によって守られると考える傾向が見受けられます。

「ものいわぬお年寄り」から、「発言し提案するお年寄り」になることで、交通事故はかなり減るはずです。お年寄りにしかわからない交通上の不都合や、こうしたら安全になるという提案は、遠慮しないで積極的に発言していきましょう。発言にはそれなりの責任が伴いますが、高齢者が責任を果たすことで、安全な行動をしようと動機づけられていくはずです。



リーダーのための資料


 上手に進行するためのポイント

① レベル2 でつくったヒヤリ地図の確認

ヒヤリ地図がつくられていることが前提なので、それがちゃんとできているかどうかを確認しましょう。

[前回]

みんなで作った
ヒヤリ地図

+

[今回]

実際に起きた事故の
場所を示した地図

② 前回と同じメンバーで行う

できれば、ヒヤリ地図づくりに参加したメンバー、あるいはそういう方が多く含まれるメンバー構成になることが望ましいでしょう。

③ 過去3年間の事故データを集めるのは、なかなか大変な作業

ヒヤリ地図で扱った地域のどこでどんな事故が起こったかというデータは、地元の警察にはあるはずですが、管内の地図に事故発生地点をピンでとめたり、印をつけている警察署があります。こんな地図がある場合、今回の作業が交通安全の勉強の機会であることをよく説明して、転記させていただくとよいでしょう。

こうした地図がなく、事故の原票がとじてあるだけという警察もあります。原票には当事者の住所や名前が入っているだけに、見せていただくことは困難です。氏名や住所は知らないことをよく説明して、事故地点のデータ入手方法を相談してみる必要があります。最近では、インターネット上で事故地点のデータが公開されている場合もありますので、ご確認いただくとよい場合もあるでしょう。

④ 地元警察に相談する

どうしても正確な事故データが手に入らない場合は、地元警察の交通担当警察官にたずねてみましょう。どこで事故が起こったかはよく知っているはずですから、「ヒヤリ地図」を持ち込んで、事故現場を口頭で教えてもらうとよいでしょう。

⑤ 相談するときは余裕を持って

警察官もたいへん忙しい業務をかかえていますので、事故データ収集は、かなり時間的余裕をもってお願いすることが大事です。

事故現場の入った 「ヒヤリ地図」の 作り方

I . 準備

- ①主催者の決定
- ②実施グループのリーダー、班長を決定
- ③主催者とリーダーとの打ち合わせ
- ④参加者への呼びかけ

II . あらかじめ用意するもの

- ①会場
- ②レベル2でつくった「ヒヤリ地図」
- ③用具
- ④事故データ（事故が起きた場所を地元警察署から入手）

III . 作業

- ①リーダー、班長による説明
- ②地図を理解してもらう
- ③事故発生個所の表示
- ④ヒヤリ個所と事故発生個所の対比と掘り下げ——潜在的危険個所、真の危険個所の発見とそれへの対応策



IV . 運用

- ①「ヒヤリ地図」の公開・充実
- ②潜在的危険個所および真の危険個所について、行政に場所を知らせ、対応策についても提案する
- ③対応策については、行政に提案するだけでなく、自分たちで実行できるところは実行する
- ④次のリーダー、班長の決定

上の表は、事故現場の入った「ヒヤリ地図」づくりの過程を示しています。

「ヒヤリ地図」がすでにできあがっていて、その地図をさらに充実させ、地域の安全のために運用していくために行います。準備や作業については、「8. ヒヤリ体験を生かす レベル2」の説明を参考にして進めていきます。

今日、話し合うための台本

進める順序	リーダーと班長にやっていただくこと
<p>○準備 10分</p>	<p>※参加者の人数に合わせて、あらかじめリーダーは班長を決めておく。</p> <p>①班を編成（5～8人）する。 ②机やいすを並べかえ、班ごとに着席する。</p>
<p>①リーダーあいさつ 10分</p> <p style="text-align: center;">▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼ ▼</p>	<p>♣ リーダー（班長の代表）</p>  
<p>■班ごとに自己紹介</p>	<p>♠ 班長 ご自分を含め、全員に自己紹介をしてもらう。 （お名前、お住まいの地域、運転歴、最近車で出かけた所など）</p>
<p>②交通脳トレ 10分</p> <p>■「交通脳トレ」問題 2枚配布</p> <p style="text-align: center;">▼ ▼</p> 	<p>♠ 班長</p> <p>①「交通脳トレ」問題2枚を配る ②腕時計（秒針付き）で、問題終了までの時間を計り用紙に記入。 ★リーダーが時間を計ってもよい。</p> <p>▼1枚目 「文字ひろい」または「まちがい探し」 ▼2枚目 「計算と音読」</p>   

話し方の例

このまま読みあげるだけで講座を進めることができます



リーダー

- 多くのみなさんには、すでに「ヒヤリ地図づくり」にご参加いただき、みなさんの手で、きれいな地図ができ上がっています。
- 初めての方もいらっしゃるかもしれませんが、「ヒヤリ地図」というのは、お集まりのみなさんの住んでおられる地域の細かい地図の上に、参加された方々が歩いていて車や自転車にヒヤリとしたり、車を運転したり同乗してヒヤリとした場所に、シールを貼ったものです。みんなで危険な場所を探し、お互いの危険体験を話し合いながら、それを共有し、安全を守っていこうという目的でつくられたものです。
- 今日は、ここにある「ヒヤリ地図」をいっそう発展させるために、この地域の過去の事故データを集めていただいております。地図の上で実際に事故が起こった場所に、別の色（黒）のシールを貼っていき、はたしてヒヤリとしている所で本当に事故が起きているのか、またそれとは逆に、事故が起きている所では多くの人がヒヤリ体験をしているのかを調べてみようというわけです。
- もし、事故が起きているのにヒヤリしていない場所があったら、そこは本当は危険なのに多くの人が気づいていない場所です。もっとも危ない場所として注意する必要があります。逆に、事故はなくても多くの人がヒヤリとしている場所があったら、そこは事故が起きる可能性の高い場所だということになります。事故が起きないうちに道路や信号の改良、あるいは危険な場所だと気づかない人への情報提供など、手を打つ必要があります。
- 今日は、私たちの街を安全な街にするための大事な機会です。ぜひともみなさんのご協力をお願いしたいと考えています。ではこれから班に分かれ、班長さんや私の司会で進めます。



班長

- 最初のトレーニングは「交通脳トレ」です。この問題は3ヵ月分あるのですが、今日はそのうちの1日分（2枚）をやっていただきます。
 - 1枚目の問題では、安全運転に大切な、運転中にとっさに危険を察知する能力を支える、脳のトレーニングを行います。
- 2枚目の問題では、簡単な計算問題（※）と小説などの一部を音読していただき、脳を活性化します。2枚1組の問題を少なくとも3ヵ月間続けて行くと、効果が出てきます。
- 2人1組になり、問題にかかった時間を腕時計（秒針付き）で計ります。1枚目の問題から始めます。「スタート」の合図をしたら、時間を計ってください。では、スタートします。（2枚目の2つの問題も同様に行う）

ポイント

- ★準備の必要上、初めて実施するときは事前に班長を決めておきますが、次回からは自薦、他薦で班長を決めるのもよいでしょう。
- ★参加者のみなさんに、トレーニングの目的、内容を理解してもらうことが大切です。
- ★趣旨説明ではリーダーは一方的に話すのではなく、参加者と話し合いをしながら、意見や提案を受ける形で進める方がよいでしょう。重要なことは、参加者に上から命じられてそれを行うのではなく、自分たちのために、自分たちの企画で地図づくりが行われているのだと実感してもらうことです。
- ★お互いのことを知ると話がスムーズに進みます。
- ★まず、「交通脳トレ」から始め、脳の働きを高めます。
- ★開発者は、脳のトレーニングで知られる東北大学の川島隆太教授です。
- ※やさしい問題をすばやく正確に計算することが、脳を活性化させます。
- ★時間の計り方を練習してから始めましょう。
- *「交通脳トレ」の詳しい情報は、別冊子「交通脳トレ3ヵ月」をご覧ください。

進める順序

リーダーと班長にやっていただくこと

③ ヒヤリ地図に事故のデータを加える

1時間 15分

■ 「ワークシート
みなさんへの質問」
1枚配布 (10分)



■ 進め方の説明
(5分)



☕ 休憩 (5分)

■ 既存のヒヤリ地図
に新たなヒヤリ個
所のシールを貼る
(5分)



♠ 班長

- ① 「ワークシート みなさんへの質問」1枚を配り、参加者に記入してもらう。
- ② 班ごとに進行役になって、1人ずつ答えと理由を聞く。
- ③ 班メンバーの報告を簡単にメモする。



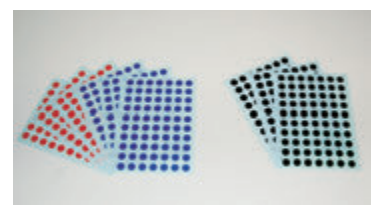
♠ 班長

- 「ヒヤリ地図づくり」の進め方について説明をする。



♠ 班長

- ① 貼り付け用シール (タックシール) (赤、青、黒) を配布する。
 - ・ 赤、青——それぞれ新しく加わった人1人あたり30個ぐらい
 - ・ 黒——3年間の事故件数分
- ② 初めて参加する方には、班ごとにリーダーと班長の案内で既存のヒヤリ地図に1人ずつ赤と青のシールを貼ってもらう。



貼り付け用シール
(タックシール)



- まず、お手許の「ワークシート」にご記入いただきたいと思います。
- いかがですか？「問3 家の近くで、よく事故が起きる場所がありますか？」という質問がありますが、いかがですか？ みなさんは過去3年くらいの事故の場所をみんなご存じなのでしょう？今日は、そんなことも含めて、新たな地図づくりに挑戦してみたいと思います。



- それでは、まず、今日の作業の進め方について説明したいと思います。
- みなさんの前にある「ヒヤリ地図」を見てください。
- これは、今日参加いただいている〇〇さんや△△さんがつくられたもので、地図の上に、歩いたり自転車に乗ったりしてヒヤリと感じた場所に赤いシール、車を運転したり同乗してヒヤリとした場所に青いシールが貼ってあります。
- たくさんのシールが貼ってある場所は、多くの人がヒヤリとしている場所で、それだけ危ない場所だといえます。
- 〇〇さん、どんな場所がヒヤリの多い場所か、説明していただけますか？



- いかがですか？ 今日初めてご参加いただいた方には、わかっていただけましたか？
- 初めてご参加いただいた方々に、赤いシールと青いシールをお渡しします。歩いたり自転車に乗ったりしてヒヤリと感じた場所には赤いシール、車を運転したり同乗してヒヤリとした場所には青いシールを貼っていただいけません。ヒヤリとした場所のすべてに、次々と貼って行ってください。

- ★赤いシールと青いシールが貼ってある場所について説明しましょう。
- ★シールがたくさん貼ってある場所がどんな所か具体的に話すと、初めて参加された方もイメージをつかむことができます。

- ★班長はできるだけ和気あいあいと作業が進むようにリードする必要があります。
- ★貼る場所が少ない高齢者に劣等感を感じさせないように配慮することも重要です。
例) 思い出したら、後でもいいですから貼ってください。

進める順序	リーダーと班長にやっていただくこと
<p>■ヒヤリ地図の上に透明なビニールシートを置き固定する (5分)</p> <p style="text-align: center;">▼</p> <p style="text-align: center;">▼</p> <p style="text-align: center;">▼</p>	<p>♣ 班長</p> <p>①地図づくりについて説明する。</p> <p>②班ごとに、リーダーと班長の案内で、地図の上にビニールシートを置き、端をセロテープなどで固定する。 (ビニールシートは、ヒヤリ地図と同じくらいの大きさ)</p> 
<p>■実際の事故現場に黒いシールを貼る (10分)</p> <p style="text-align: center;">▼</p> <p style="text-align: center;">▼</p>	<p>♣ 班長</p> <p>○2人1組にし、それぞれの組に事故のデータを渡し、2人で相談しながら、事故発生場所を確定し、黒いシール(3年間の事故件数分)を貼ってもらう。</p> 
<p>☕ 休憩 (5分)</p>	
<p>■つくった地図の掘り下げ (10分)</p> <p style="text-align: center;">▼</p> <p style="text-align: center;">▼</p> <p style="text-align: center;">▼</p> <p style="text-align: center;">▼</p>	<p>♣ 班長</p> <p>①できあがった地図を見ながら、どこにシールが集中しているかなどを、リーダーと班長の司会で、班ごとに話し合う。</p> <p>②後で行う班ごとの報告に備え、班メンバーの発言内容をメモしておく。</p> <p>③班メンバーと相談しながら、報告内容をまとめる。</p> 
<p>■班の代表の発表 (10分)</p> <p style="text-align: center;">▼</p> <p style="text-align: center;">▼</p> <p style="text-align: center;">▼</p>	<p>♣ 班長</p> <p>○班ごとに代表が出て、話し合った内容を発表する。報告の内容は、以下の項目を参照。シールが集中した危険な個所を中心に話す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヒヤリ地図をつくってわかった危険な場所 2. 危険を招かない走り方、歩き方 3. グループで話し合った道路などの改善提案
<p>■ヒヤリ地図の有効な活用方法についての話し合い (10分)</p> <p style="text-align: center;">▼</p> <p style="text-align: center;">▼</p>	<p>♣ 班長</p> <p>○つくった地図を、地域の交通安全に役立つ活動に発展させるためのアイデアを出し合う。</p> 



●よろしいですか？ それでは、今日の作業の手順を説明したいと思います。

まず一番最初に、用意されている透明なビニールシートを、できているヒヤリ地図の上に、いっぱい置き、端をセロテープなどを使って固定してください。

●透明なビニールシートですから、ビニールシートを通して、ヒヤリ地図がよく見えると思います。



●次に、実際の事故現場に、1つの事故を1個のシール（黒）にして、数だけ貼ってください。住所しかわからない場合は、その地番の所にシールを貼ってください。受け取ったデータは2人で相談しながら、場所を確かめ、そこに黒いシールを貼って行ってください。



●ここでは、「掘り下げ」という作業をしたいのです。掘り下げでは、具体的に以下を行います。

1. ヒヤリ個所と、事故現場が一致している場所の確認
2. ヒヤリとしているのに、事故が起こっていない場所（潜在的危険個所）の確認

3. ヒヤリしていないのに事故が起こっている場所（真の危険個所）の確認をまず行い、どうしたら事故が防げるかを話し合い、良い提案があったら書き留めておいてください。

★参加者がヒヤリとした場所と実際に事故が起きた場所を比較することがポイントです。



★班ごとの報告を聞くことで、他の地域の危険個所をお互いに知ることができます。

【アイデア例】

- ・できあがった地図を、町内会の掲示板や小学校など、公の場所に貼って地域の人に見てもらう。
- ・できあがった地図を縮小コピーして、印刷して配る。

注) 自治体で入手した地図や市販の地図に手を加えたものを掲示したり、印刷・配付するときは、著作権の関係上、承認を受ける必要があります。もよりの自治体（都市計画課など）または発行元にご相談ください。

★「ヒヤリ地図づくり」はこうした活動そのものを通して、参加者が安全に向けて動機づけられることを目的としています。できあがった地図を活用していくことも意義深いのです。

進める順序

リーダーと班長にやっていただくこと

④リーダーまとめ

5分

■「今日、覚えてほしいこと」2枚配布



♣ リーダー（班長の代表）

- ①リーダーとして今日の話し合いの感想を話す。
- ②「今日、覚えてほしいこと」2枚を配り、説明した後、参加者に読んでもらう。
- ③今日のまとめをする。



【ご注意】 次回の集まりをご計画の場合は、最後にその案内や班長の人選を忘れないようにしましょう。

○あとかたづけ

10分



- 今日できあがった地図は、せっかくみなさんが苦勞されてつくったものですし、安全のための情報が満載されています。つくっただけで終わったり、このまま地図が眠ってしまうのではもったいないな、と強く感じています。

地域の人たちが見てくれる場所に展示したり、これを小さい地図に転記し、印刷して配ったり、あるいは報告会を開いたり、活用の方法がいろいろ考えられるのではないかと思います。(※)

- ヒヤリ地図の上に透明なビニールシートを置いて、そこに事故発生個所を黒いシールで貼るこの作業は、地域の方々の安全教育に使うための材料として利用いただきたいと考えたからです。
- 地域の方々に集まっていたいで、ステップ2でつくったヒヤリ地図を示し、それを説明した上で、自分たちのヒヤリ体験をシールにして貼り加えてもらいます。そうした作業をやってもらった上で、「それでは実際に事故の起こった場所を示してみましよう」といって、みなさんが今日おつくりになった、黒いシールの貼られたビニールシートを置き、ヒヤリ個所と事故現場を対比していきます。いま自分たちが作業をした後だけに、危険個所が強い印象となって残るのです。こんな利用の仕方も有効かと思えます。

- 資料「今日、覚えてほしいこと」は、指名させていただきますので、順番に読みあげていただけますか。(※)
- みなさんは、この「いきいき運転講座」「ヒヤリ体験を生かす」のレベル3にまで達していただいた方々ですから、みなさんには十分な地域リーダーとしての能力が備わっていると思います。みなさんにはぜひとも地域リーダーとしての自覚を持って、運用方法を考えていただければと思います。

- ★ 参加者はトレーニングの後、今日のまとめを期待しています。リーダーの方は「今日、覚えてほしいこと」を配り、今日のポイントをまとめて伝えましょう。

※ P115の「アイデア例」の注を必ず守ってください。

- ★ 感想の中で、具体的な参加者のお名前などをあげながらお話しし、リーダーとしての感想をつけ加えていただくと、より励ましになります。

※ 時間がなければ「ここでは読みあげませんが、お帰りになってからお読みいただけると幸いです」とつけ加えてください。